

山形商工会議所

機関名	山形商工会議所		
所在地	山形県山形市七日町3-1-9		
電話番号	023-622-4666		
地域概要	(1)管内人口 25万5千人	(2)管内商店街数 60商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 9商店街	(2)会員数 419商店	
	(3)空店舗率 4.7%	(4)大型店空き店舗 -店	
商店街の類型	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成12年度	駐車対策	循環バス
	総事業費	65,254千円
平成13年度	駐車対策	循環バス、イベント
	総事業費	55,420千円

【事業実施内容】

1. 背景

山形市は、山形県の県都として発展してきたが、中心市街地においては、大型店の閉店が相次ぎ、一方で郊外への大型店出店が増加、消費動向における郊外型大型店の比重が高まり、商業環境が激変している。

中心街において平成11年度に無料循環バス実験事業、12年度は中心街100円循環バス実験事業を実施した。

こうしたなか、平成13年度は、過去2年間の実績を踏まえ、12年度に引き続き中心街100円循環バスの運行を行なった。12月以降は、新デザインによるノンステップバスを運行した。さらに、商店街の繁忙時期（年末年始の時期）に市の東部・西部の住宅地を対象とした郊外循環コースを新たに設け、郊外2コースを運行した。

中心街循環バスとリンクさせることにより、高齢者等交通弱者や若年層等、一層の新規



山形市役所 HP より

利用者の増加を図った。また、平成 14 年度以降の自主運行実施を決定するとともに、駐車場活用のためのキャンペーンや共通駐車券利用拡大 PR を実施した。

2. 事業内容

(平成12年度事業)

(1)中心街100円循環バスの運行

実施(運行)期間

平成12年6月20日(火)～平成13年3月31日(土)までの全日

実施(運行)時間

9時30分～18時30分(但し、季節により延長運行あり)

(1周約3.6kmの中心市街地を10分間隔でバス2台、運転手3名で運行)

実施(運行)地域：中心市街地(バス停留所12カ所、左回り)

平成12年6月20日(火)～平成12年6月30日(金)までの11日間

山形駅経由のコースと駅を経由しない口の字コースの2コースで運行

平成12年7月1日(土)～平成13年3月31日(土)までの274日間

山形駅経由のコースの1コースで全日運行

- ・既存バス停留所を利用した簡易バス停留所を設置。
- ・バス停留所の新設設置(十字屋前バス停留所を新設)

料 金：100円(但し、小学生以下は無料)

利用者数：355,346人

(2)共通駐車券利用拡大のためのPR

自家用車等での来街者の循環バスを利用を促進するため、共通駐車券加盟駐車場等の位置を明記した名刺サイズのマップならびにA4サイズのチラシを運行コース表とあわせて作成し、利用拡大のため随時PRをおこなった。

(3)循環バスの運行と合わせたイベントの開催

上記循環バス運行期間内に、循環バス車内でのPRや循環バス内外装装飾、商店街等でイベント等を継続的に実施し、中心市街地への誘導を図った。

(4)各種アンケート調査の実施

- ・循環バス利用者ならびに乗降場所把握調査の実地
- ・来街者通行量調査の実施
- ・商店街、商店意識調査の実施

上記のアンケートを実施し、翌年度以降への事業継続の問題点、改善計画などを分析し、自主運行の可能性を探った。

(5)広報

- ・新聞、テレビ、ラジオ等でのPR
- ・ポスター、チラシ、看板でのPR
- ・山形市報、商工会議所会報でのPR
- ・その他各種記事掲載等情報の発信に努めた。

(平成 13 年度事業)

(1) 中心市街地 100 円循環バスの運行

実施(運行)期間

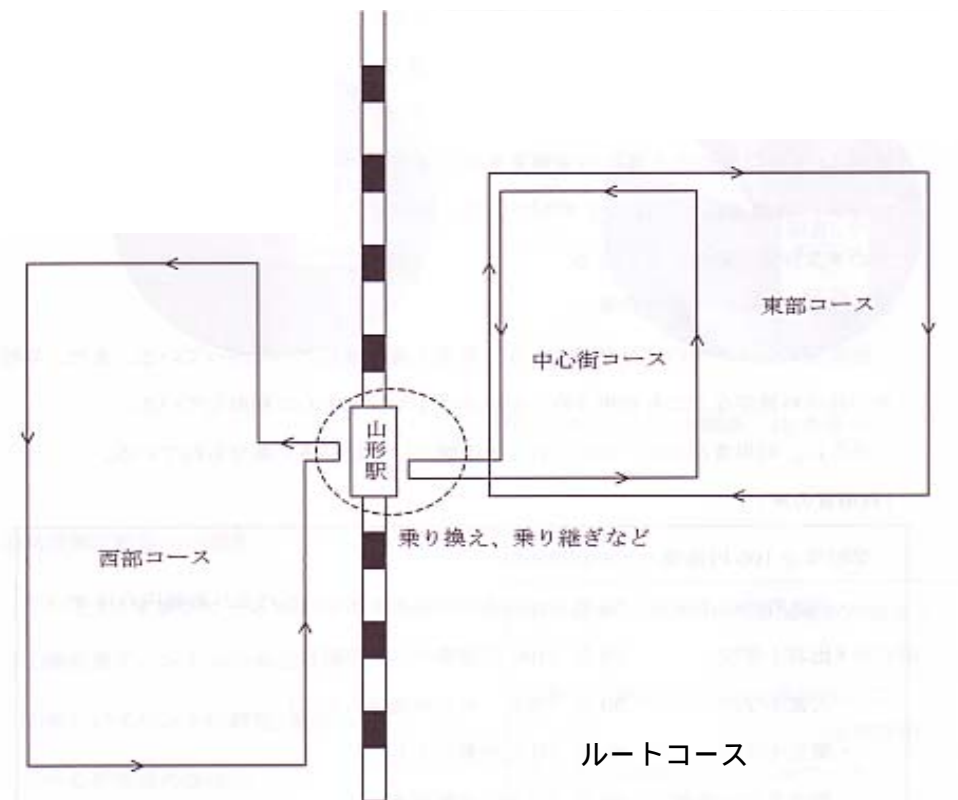
平成 13 年 7 月 1 日(日)～平成 14 年 3 月 31 日(日)までの全日(但し、8/4、1/10 は、交通規制のため運休) 272 日間

実施(運行)時間

9 時 30 分～18 時 30 分(10 分間隔でバス 2 台、運転手 3 名で運行)

実施(運行)地域

中心市街地(バス停留所 12 カ所、左回り約 3.6km)



中心市街地の循環路線を基本とし、既存バス停留所を利用した簡易バス停留所を設置した。

中心街コース

山形駅前 センタービル前 十日町 郵便局前 本町 七日町 旅籠町二丁目 旅籠町四辻
霞城公園前 NHK前 すずらん街 十字屋前 山形駅前

利用者数 380,300人

(2) 東部・西部地区郊外 100 円循環バスの運行

実施(運行)期間

平成 13 年 12 月から 14 年 1 月にかけての土曜日、日曜日、及び年末年始の 25 日間

実施(運行)時間

9 時～19 時

実施(運行)地域

【山形市の西部地区と中心部を循環するコース】

山形市の東部地区と中心部を循環するコースの2コースを設定し、既存バス停留所を利用した簡易バス停留所を設置した。

【東部コース】

山交ビル すずらん街 NHK前 霞城公園前 美術館前 旅籠町四辻 市役所前 遊学館前 北高前 小白川二丁目 山大前 東原二丁目 南高前十字路 東原三丁目 諏訪町 十日町角 山交ビル

【西部コース】

山形駅西口 三中前 春日町 山本学園前 清住町一丁目 久保田二丁目 上町口 上町四丁目 上町一丁目 西部公民館口 上町二丁目 双葉町 山形駅西口

利用者数 9,912人

(3) 共通駐車券利用拡大のためのPR

自家用車等車での来街者が中心街の駐車場へ駐車し、中心街においては循環バスの利用を促進するため、共通駐車券加盟駐車場等の位置を明記したチラシを運行コース表とあわせて作成し、利用拡大のためのPRを行った。

(4) 循環バスの運行と合わせたイベントの開催

上記循環バス運行期間内に商店街でフリーマーケット、ナイトバザール、中元、年末年始大売出しなどのイベントを継続的に行い、中心市街地への誘導を図った。

《イベント・広報》

- ・花笠祭り PR(7月24日~8月7日)
- ・商店街ナイトバザールの時における時間延長
7月14日、21日 12月14、15日
9時半から21時まで2時間30分延長
延長時間帯の総利用者数 522人



【 効 果 】

(平成12年度事業)

循環バス利用者集計結果、通年の有料運行においても約345,726人(6/20～3/31 但し、運休日、無料運休日を除く)の方々が利用しており、継続して運行することにより、乗車需要が相当数多いことが認められ、市民に対して、循環バスの存在を一層周知が図られた。

循環バスを運行することにより、中心部内における回遊性が増し、車以外の公共交通機関やその他手段により来街する交通弱者を始め、車利用の来街者に対して利便性の提供が図られた。

また、イベント等を併用し集客をはかることができ、今後商店街、個店独自の販促活動等のイベントが随時実施が可能となった。

(平成13年度事業)

12年、13年と継続して運行することにより、市民の認知度が増し、利用者数の増加をみた。また、低床型アートの運行により、高齢者や障害者などの乗降がスムーズになった。

《データ》平成13年度の1日平均乗降人員は、1,391人となり、平成12年度の1,244人に比べ約10%増加した。低床バス導入により、1,504人となった。

(1) 商店街との連携

循環バスの運行と連動して、商店街のイベントが活発に行われた。

(2) 事業の認知度

中心商店街のシンボリック的存在となり、市民の注目を集めた。また、民放4社NHK、新聞各紙の記事掲載等により認知度は、高い。

(3) 事業の継続

補助金終了後も自主運行を行っている。



アートバス

【 課題・反省点 】

(平成12年度事業)

利用者アンケートを実施したことにより、各層の年齢層から利用されており、かつより以上の新規需要が見込めることが把握でき、今後は、当事業における実績をもとに将来の循環バス自主運行の検討を本格的に行い、さらに駐車場活用のためのキャンペーンや共通駐車券利用拡大PRを実施し、中心市街地の交通手段のさらなる利便性向上を図ることが課題である。

(平成13年度事業)

今後の利用者の増加策
将来の循環バスのリニューアル

【 教 訓 】

地域特性に合った事業を展開すること。

【 関 連 URL 】

山形商工会議所 <http://www.yamagata-cci.or.jp>

【 そ の 他 】

アートバスプロジェクト

2001年12月より「中心街循環バス」は、新進気鋭の現代美術作家フェデリコ・エルレーロ（コスタリカ出身）のデザインのアートバスに変わった。

フェデリコ・エルレーロ は、山形に短期滞在し、山形の文化に触れながら、デザイン画を制作した。

平成13年(2001年)4月4日 水曜日 (山形) 26

100円バス好調 採算クリア



自主運行に向けて動き出した循環バス
＝山形市七日町

山形市の中心街に昨年度、導入された「100円循環バス」が、今年度も運行を続けている。赤字運営が心配されていたが、一日あたりの乗客数が採算ラインの千三百人を超え、利用者からも継続運行を望む声が上がっているためだ。事業を進めてきた山形商工会議所は「国の補助が打ち切られた後の自主運行の可能性も考えてきた」と自信を深めている。

循環バスは中心街活性化策の一環として、国の補助を受け、昨年度半額の一五割、JR山形駅と七日町から七日町にかけて、八百人という一日あたりの乗客数だと、年間の赤字が数千円

商店街の活性化以外に、交通渋滞の緩和や高齢者の移動手段としての役割も期待されている。また、商議所が想定した六百

山形商議所「自主運行にも自信」

このたびは、昨年九月に乗客九百五十一人を対象に行ったアンケートでは、半数近くの四百四十三人が「中心街に乗り回す回数が増えたい」と回答しており、商店街の活性化策としての有効性も裏付された。

「自主運行に向けては、商議所として今年度の運行継続を決定。このたびは、国の補助が打ち切られることが想定されているため、赤字運営も可能な限り、自主運行に回す。行政も商店街と連携して、自主運行に力をつけてほしい」と呼びかけている。

に上り下りから、国の補助なしでの自主運行は困難と見込みが薄かった。

しかし、商店街や行政機関、観光事業者の協賛で運行を継続する。また、時間経過とともに利用者が増え、昨年十一月から今年度の一日平均の乗客数は千四百九十八人を、採算ラインを上回った。また、商議所には、利用者から運行継続を望む声も入ってきているという。

(平成13年4月4日(水) 産経新聞)

山形

山形支局
山形市小姓町1-1
〒990-0032
TEL 023(623)9241P
FAX 023(623)3018

販売店へのご用は

山形中央	023(642)1620
南	(622)9331
西	(644)3072
北	(631)0560
陸山	(623)0785
米沢東部	18(231)1099
西部	(22)3992
新	023(23)11950
天童東部	23(653)2144
北部	(654)4148
東	0237(42)1851
村	0237(55)6230
上	0237(67)20642
鶴	0235(22)9765
西	0234(41)1615

ご購読の申し込みは
〒971-8411
0120(34)4646へ。
山形サンライズ公社
023(691) 2159P
FAX 023(691)2167